



# 平成29年度 今年度の試験輸送

平成29年6月2日

境港管理組合



## 1 これまでの主な実績と課題

### (1) 取組実績

- ・ 苫小牧港～新潟港～境港間試験輸送（栗林商船、H25.4月、8月、10月、H26.12月）
- ・ 北九州港～境港間SEA & RAIL試験輸送（佑勝丸／日本海運、H27.12月）
- ・ 苫小牧港～敦賀港～境港間試験輸送（ひだか／近海郵船、H28.6月 2週連続）
- ・ 東京港～博多港～境港間試験輸送（ひまわり5／日本通運、H28.12月）

### (2) 主な課題と取組の方向性

#### 課題① 運航船舶の確保

- 既存航路延伸(スペースチャーター方式)による確保を検討

#### 課題② 集荷配送体制の整備

- 集荷代理店及び集荷配達業務は境港流通プラットフォーム協議会を中心とする地元運送事業者の協力を求める
- シャーシ・ヘッド等の輸送機材の設備投資へのリスク軽減策を検討

#### 課題③ 利用貨物の確保

- 地元製造業との協力によるベースカーゴの確保(紙製品、飲料水、合板等)
- 移入貨物が少ないため往復バランスを確保(新聞用紙、農産物等)
- モーダルシフトへのメリットのある利用料金とインセンティブ設定の検討



## 2 平成29年度事業計画

### ○内航RORO船準定期運航へのステップアップ

個々の荷主が、輸送経費、品質、リードタイムを評価できる試験輸送にシフトすることにより、海上輸送サービスの商品化に向けた、民間(船社、集荷代理店、運送事業者)主体の仕組みづくりを推進させる。

#### **[1段階] 苫小牧港～敦賀港～境港間内航RORO船試験輸送(7月に実施予定)**

- ・荷主に対し一貫輸送経費、品質、リードタイムの具体的な提示と新たな荷主開拓
- ・商品化可能な輸送サービスの検証
- ・集荷エリアの拡大

#### **[2段階] 苫小牧港～敦賀港～境港間内航RORO船試験輸送(秋以降予定)**

- ・商業ベースでの船社、集荷、陸上ハンドリング体制の構築に向けた試行
- ・ベースカーゴ(特定貨物)の確保

○多様な輸送モード(有人トラック、オン・シャーシ等)による利用(企業参入)のニーズを検証

○九州方面への貨物についてもリードタイム及び輸送コスト等を検証

○環日本海定期航路(DBSクルーズフェリー)との接続による試験輸送を検討

○国際物流分科会及び物流・取引環境改善分科会での輸送ニーズ調査・検証結果を反映



## 3 関連施策の検討

### ○境港側の陸送体制整備とインセンティブ制度の検討

複合一貫輸送に対応したシャーシ・ヘッド等の輸送機材の設備投資へのリスク軽減と海上モーダルシフトへのメリットのあるインセンティブ設定の検討を行う。

#### ①複合一貫輸送に対応した境港背後の陸送体制の整備支援(輸送機材整備)

- ・国のモーダルシフト関係補助制度の活用支援や中古シャーシのリース制度
- ・全国展開しているシャーシ保有物流企業との業務提携

#### ②利用企業や物流事業者へのインセンティブ制度設計とPS体制強化

- ・荷主へのインセンティブ及び物流事業者に対する集荷量に応じたインセティブの検討
- ・境港流通プラットフォーム協議会と連携し北海道・九州・山陽方面へのPS強化